

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

地域資源を活用したあんきなまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岐阜県、飛騨市

3 地域再生計画の区域

飛騨市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現況

飛騨市は岐阜県の最北端にあり、高山市から北に約 15km、富山県富山市から南へ約 68km に位置し、北アルプスの豊かな水やブナの原生林、貴重な高山植物が咲き誇る^{あも}う天然県立自然公園をはじめとする広大な緑に囲まれた、標高 200m から 2,800m の美しい自然環境に恵まれた地域であり、人口は約 24 千人で少子高齢化のすすむ過疎地域である。

飛騨市の人口は、1955 年をピークに減少の一途を辿っており、今後大きく減少することが予測されている。また、人口構造も大きく変化しており、中でも 15 歳～64 歳の生産年齢人口の減少が顕著である。65 歳以上の老年人口も 2017 年をピークに既に減少を始めているが 2035 年には、生産年齢人口が老年人口を下回ることが予測されている。このことから、市では今後、この人口減少を受け止めたうえで、まちづくりに取り組むものとしている。

4-2 地域の課題

本市には豊かな自然を活かした観光資源や、年間約 50 万人が訪れるユネスコ無形文化遺産に登録されている「古川祭の起し太鼓・屋台行事」や「瀬戸川と白壁土蔵街」に代表される飛騨古川の町並み、世界的に注目を集めノーベル賞受賞者を 2 名輩出している「スーパーカミオカンデ」に代表される宇宙物理学研究施設など地域特有の魅力ある拠点が数多く点在するが、これらの資源を地域の活性化につなげることが課題である。また、市域の 93% を占める山林の資源を利活用するにあたり、森林施業の効率化と木材生産コストの低減や災害に強い森林づくりを進めるための基盤である林道の整備が急務となっている。

4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、市道、林道を一体的に整備することにより、豊かな自然を活かした観光資源や観光施設、宇宙物理学研究施設とを結ぶ拠点間のアクセスを改善することで、交流人口の増加を図る。また、森林整備の実施箇所と木材集積所までのアクセスを改善することで木材産業の効率化と木材生産の低コスト化を図る。これらの結果、地域全体として観光産業や木材産業等の地域産業の競争力強化に資する道路ネットワークの構築により、経済効果が持続することで、地域の魅力を活かしたあんきな（安心な）まちづくりを目指すものである。

(目標1) 年間搬出間伐量の増加

6,013 m³ (平成26～30年度の平均)

→ 6,300 m³ (令和2～6年度の平均)

(目標2) 年間観光入込客数の増加

1,037 千人 (平成26～30年度の平均)

→ 1,150 千人 (令和2～6年度の平均)

(目標2) 道の駅「宙ドーム・神岡」年間売上額の増加

33,063 千円 (平成26～30年度の平均)

→ 37,000 千円 (令和2～6年度の平均)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

飛騨市は、東海北陸自動車道の整備により、大都市圏からのアクセスが改善されてきたが、市内では急峻な地形が多いため、地域間のアクセス道がぜい弱となっている。古川町市街地や神岡町における廃線を利用した「レールマウンテンバイクガッタンゴー」、道の駅「宙(スカイ)ドーム・神岡」にある宇宙物理学研究紹介施設「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」を拠点に世界最先端の宇宙物理学研究施設「スーパーカミオカンデ」や「KAGRA」、2020年代後半に本格稼働を目指し建設されることが予定されている「ハイパーカミオカンデ」との連携や市内に点在する自然を活かした観光による交流人口の増加や地域産業の活性化を目指すためには、観光施設や研究施設へのアクセスの改善や道路の安全性の向上が急務となっている。さらには、既存林道の老朽化に伴う法面や路肩の安全性の低下や林道と幹線道路のアクセスがぜい弱なことから森林施業の効率化を求められている。

そこで、地方創生道整備推進交付金により、国道41号や国道360号、国道471号、県道などの幹線道路とつながる、市道の「跡津川線」「高野スキー場線」「中野中田線」「中野西ヶ洞線」「谷下野線」の道路改築や、林道の「森安～万波線」の

開設、「和佐府線」「双六～瀬戸線」「安峰線」「大谷線」「森安～臼坂線」の改良を行うことにより、効率的な道路網を構築する。それによって、地域の豊かな自然を活かした観光資源や宇宙物理学研究施設がネットワーク化されることで観光客数の増加・滞在時間の延長を図るとともに、あわせて「飛騨市最先端科学都市構想推進事業」を活用することで、研究者と地域住民との交流も促進される。加えて、森林整備の実施箇所と木材集積所までのアクセスを改善することで木材産業の効率化と木材生産の低コスト化を図り、林業・木材産業の生産活動を向上させ、林業の振興を図っていく。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続等を完了している。
なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

・市道 道路法に規定する市道に認定済み。()内は認定年月日。

跡津川線 (昭和58年3月18日)

高野スキー場線 (昭和56年1月1日)

中野中田線 (平成19年3月30日)

中野西ヶ洞線 (平成22年10月4日)

谷下野線 (平成5年3月31日)

・林道 森林法による宮・庄川地域森林計画変更計画書(平成30年12月28日変更)に路線を記載。

森安～万波線、和佐府線、双六～瀬戸線、安峰線、大谷線、森安～臼坂線

[施設の種類] [事業主体]

- ・市道 飛騨市
- ・林道 飛騨市

[事業区域]

- ・飛騨市

[事業期間]

- ・市道 令和2年度～令和6年度
- ・林道 令和2年度～令和6年度

[整備量及び事業費]

- ・市道 2.68 km、林道 3.52 km
- ・総事業費 2,421,272千円 (うち交付金 1,190,636千円)
 - 市道 1,685,365千円 (うち交付金 842,683千円)
 - 林道 735,907千円 (うち交付金 347,953千円)

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

(令和/年度)	基準年 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
指標1 飛騨市内の 年間搬出間伐量 (m ³ /年)	6,013	6,060	6,120	6,180	6,240	6,300
指標2 飛騨市内の 年間観光入込客数 (千人/年)	1,037	1,050	1,075	1,100	1,125	1,150
指標3 道の駅「宙ドーム・ 神岡」の 年間売上額 (千円/年)	33,063	33,800	34,600	35,400	36,200	37,000

毎年度終了後飛騨市の職員が必要な調査を行い、速やかに状況を把握する
[事業が先導的なものであると認められる理由]

(政策間連携)

市道及び林道を一体的に整備することにより、幹線道路を中心とした効率的な道路網が整備され、観光地の連携や林業の振興といった地域再生の目標達成に資する点で先導的な事業となっている。

(その他の理由)

地下空間を活用したニュートリノ観測で知られる、「スーパーカミオカンデ」などの世界最先端の宇宙物理学研究施設や、かつて住民の生活を支えた神岡鉄道は利用者の減少により廃線となったが、住民の手で体験型アトラクションとして新しく姿を変え、今後一層の活用が期待される「レールマウンテンバイク・ガッタンゴー」の観光施設、ユネスコ無形文化遺産に登録される「古川祭の起し太鼓・屋台行事」、豊かな自然資源のエコツーリズムなどと連携することで地域再生の目標達成に資する点で、他の地域にない先導的な事業となっている。

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「地域資源を活用したあんきなまちづくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 森林整備地域活動支援交付金事業

内 容 森林施業の集約化に必要な森林情報の収集、境界確認等の諸活動に対して支援する事業で、森林施業の実施の基盤となる既存の作業路網の改良を行う活動に対して支援を行う（農林水産省支援事業）。

実施主体 飛騨市

実施期間 令和2年4月～令和7年3月

(2) 森林環境保全整備事業

内 容 面的にまとまって計画的に行う搬出間伐等の森林施業と、これと一体となった森林作業道の開設を行う（岐阜県支援事業）。

実施主体 飛騨市森林組合、ひだ森林整備協同組合

実施期間 令和2年4月～令和7年3月

(3) 環境保全林整備事業

内 容 既存の林業経営では採算の合わない飲用水や農業用水等の水源地域や渓流域、急傾斜地等の森林の整備・保全を推進するため間伐等を支援し、環境を重視した森林づくり、森林の公益的機能の維持増進を図る。（岐阜県単独事業）

実施主体 飛騨市、飛騨市森林組合

実施期間 令和2年4月～令和7年3月

(4) 里山林整備事業

内 容 野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や、生物多様性の保全を図るため里山林の整備・管理を支援する。（岐阜県単独事業）

実施主体 飛騨市、飛騨市森林組合

実施期間 令和2年4月～令和7年3月

(5) 飛騨市最先端科学都市構想推進事業

内 容 飛騨市でおこなわれている、世界でも最先端の宇宙物理学研究がより一層推進されるよう、研究者のよりよい研究環境や住環境の実現に向けた支援をおこなう。また、研究機関と協働し、当地でおこなわれている研究を分かりやすく広く周知するためのアウトリーチ活動をひだ宇宙科学館カミオカラボなどを活用し展開する。（飛騨市単独事業）

実施主体 飛騨市

実施期間 令和2年4月～令和7年3月

6 計画期間

令和2年度～令和6年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に飛騨市が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、岐阜県や飛騨市で行う調査データを用いて評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	令和元年度 (基準年度)	令和4年度 (中間年度)	令和6年度 (最終目標)
目標1 年間搬出間伐量の5% 増加	H26～30の平均 6,013 m ³	R2～4の平均 6,180 m ³	R2～6の平均 6,300 m ³
目標2 年間観光入込客数の 10%増加	H26～30の平均 1,037 千人	R2～4の平均 1,100 千人	R2～6の平均 1,150 千人
目標3 道の駅「宙ドーム・神岡」 の年間売上の10%増 加	H26～30の平均 33,063 千円	R2～4の平均 35,400 千円	R2～6の平均 37,000 千円

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収集方法
年間搬出間伐量の増加	岐阜県伐採実績管理データより
年間観光入込客数の増加	飛騨市観光課の入込客に関する調査より
道の駅「宙ドーム・神岡」の売上額の増加	指定管理事業報告書より

- ・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容
 1. 事業の進捗状況
 2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかに岐阜県、飛騨市のホームページにより公表する。

(2) 整備する施設の整備区域又は整備箇所を示した図面

林道 大谷線(法面路側改良)
事業期間 R2~R6年度
整備量 L=370m W=3.0(3.6)m
事業費 52,000千円
(うち交付金 26,000千円)

市道 跡津川線(改築)
事業年度 R2~R6年度
整備量 L=880m W=4.0(6.0)m
事業費 1,467,000千円
(うち交付金 733,500千円)

林道 森安~万波線(開設)
事業期間 R2~R6年度
整備量 L=1,500m W=3.0(4.0)m
事業費 400,000千円
(うち交付金 200,000千円)

林道 森安~臼坂線(法面改良)
事業期間 R3~R3年度
整備量 L=73m W=3.0(4.0)m
事業費 11,072千円
(うち交付金 5,536千円)

林道 和佐府線(法面改良)
事業期間 R2~R2年度
整備量 L=97m W=5.5(7.0)m
事業費 32,835千円
(うち交付金 16,417千円)

市道 谷下野線(改良)
事業期間 R2~R3年度
整備量 L=1,118m W=6.0(7.0)m
事業費 15,977千円
(うち交付金 7,989千円)

林道 双六~瀬戸線(局部改良(路床、路盤)、橋梁改良)
事業期間 R2~R6年度
整備量 L=880m W=5.5(7.0)m
事業費 140,000千円
(うち交付金 70,000千円)

市道 中野中田線(改築)
事業期間 R2~R5年度
整備量 L=210m W=4.0(5.0)m
事業費 53,000千円
(うち交付金 26,500千円)

市道 中野西ヶ洞線(改築)
事業期間 R2~R3年度
整備量 L=93m W=4.0(5.0)m
事業費 37,975千円
(うち交付金 18,987千円)

市道 高野スキー場線(改築)
事業期間 R2~R5年度
整備量 L=377m W=4.0(5.0)m
事業費 111,413千円
(うち交付金 55,707千円)

市道 中野西ヶ洞線(改築)
事業期間 R2~R3年度
整備量 L=93m W=4.0(5.0)m
事業費 37,975千円
(うち交付金 18,987千円)

林道 安峰線(法面改良)
事業期間 R2~R6年度
整備量 L=600m W=3.0(3.6)m
事業費 100,000千円
(うち交付金 30,000千円)

- 【凡例】
- 施行箇所
 - 自然資源
 - 観光資源
 - 宇宙科学研究施設
 - その他施設・拠点